

公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151
ホームページ <http://gikyo.ktroad.jp/>

「音楽と記憶」

公益社団法人 岐阜県交響楽団

理事 中村 雅彦



先日久し振りに再開した同級生とゴルフをする機会があった。彼はプレーの合間に歌を歌ったりして楽しくゴルフに興ずる楽道家である。その折彼が口ずさむ歌が私の少年時代の思い出に残っている曲ばかりで、遙か昔の記憶なのにその歌詞やメロディーがスラスラと出てくる驚きと懐かしさで一日楽しく過ごせた。その時人間の音楽に対する記憶というものはかなり強烈なのだと驚かされた。

私にとつての音楽とはどのようなものであったのだろうか。今まであまり意識したことはなかったが、記憶にしっかりと残っている音楽はどのような身に付いたのだろうか。私の時代は胎教に音楽をなどということはまだまだの時代であったので、家族の子守唄が最初の音楽とふれあいであったのだろう。私が生まれた昭和三十二年頃は、現代のように多種多様な音楽といるいろいろな時代であった。せいぜい子供の頃は家庭ではラジオから聞く音楽に始まり、幼稚園では童謡やお遊戯会の曲。小学校で音楽授業での唱歌。ハーモニカ、縦笛の演奏くらいだったと思う。運動会やフォークダンス、お祭りなどイベントに流れる音楽、東京オリンピック、岐阜国体、万国博覧会など時代を背景とした音楽も記憶に残っている。実は岐阜国体の時の「岐阜県民の歌」がなぜか口ずさめる。東京

オリンピック後小学校途中くらいからテレビが普及し歌番組からの歌謡曲、番組の主題歌、CMの音楽も記憶に焼きついていて。中学くらいからはラジオの深夜放送が全盛であったのでよく聞いた。洋楽にはまったのもこの頃だった。特にビートルズ、サイモン&ガーファツクルは私の青春の音楽だったのかと思う。さてここで振り返ったとき肝心のクラシック音楽の記憶が出てこないのである。田舎で育った少年時代、家族がクラシック音楽に通じていなかったこともあり、さらに幼稚園の時は体験入学で入ったオルガン教室も、「外で走り回っている方が好き」と言ってしまう。記憶にあるのはウイーン少年合唱団の映画くらいであった。クラシック音楽のCDを買って聞くようになったのは、実に三十歳になりわが子ができてから胎教、幼児教育をと考えてからである。

音楽を楽しむ、音楽を奏でられるのは人間だけだと言われている。子供からの音楽に対する記憶は私に思ふにかなり強力で、その都度音楽に感動したり、楽しんでたり、また音楽とともに人生に喜んだり、悲しんだり、癒したりしてくれるのが音楽でありだから強い記憶に残るのであると思う。感動を与えられる音楽を提供すること、そういう機会が身近にあることはとても大切なことだと思う。

公益社団法人 岐阜県交響楽団は多くの方々の支えと努力により、六十六年間岐阜県民に演奏会並びに演奏活動を通じ素晴らしい音楽を提供してこられました。これからも多くの方々に記憶に残る感動を与えられる音楽を普及していただき、岐阜の文化の発展に寄与できる限り理事としての職責を精一杯頑張りたいと思います。

(公益社団法人
岐阜県歯科医師会
常務理事)

高谷光信先生 インタビュー

最近は大ファンリーコンサートを多く振っていただいている高谷先生ですが、定期を振っていただくのは久々ですね。

そうですね。岐響とはもう回数もわからないくらい沢山の本番を重ねておりますが、やはり定期演奏会を務めさせていただくというのは身の引き締まる思いです。

また今回のプログラムでは、私がとても大切にしているロシアの作曲家、チャイコフスキーとラフマニノフの作品を選んでいただき感謝しています。

先生とウクライナの関わりはどのようなものですか？

私は京都市立堀川高校音楽科に通っておりました。京都市とキエフ市が姉妹都市であることから、当時、堀川高校とルイセンコ音楽院が提携校になっておりました。そうした環境もあって高校時代からウクライナを身近に感じ、ウクライナ国立チャイコフスキー記念音楽院の指揮科で学ぶことを決断いたしました。現地ではチャイコフスキーやラフマニノフなどロシアを代表

する作曲家の作品を勉強する機会に恵まれました。それらの作品を指揮していると留学時代にキエフの音楽院で僕を育ててくださったエフゲニー・ドゥーシエンコ先生のことを思い出します。

どんな先生だったのですか？

ドゥーシエンコ先生はウクライナを代表する指揮者であり当時キエフ音楽院で教鞭をとっておられました。とても優しいおじいさんで、遠い異国からやって来た私に対して他の学生と同じように愛情を注いでくださいました。

「僕がこの世を去っても、ティンパニの横に座って君の成功をいつでも見守っているからね。」

この言葉が今でもずっと支えになっています。

ティンパニの横に座って…どういうことですか？

現在でもウクライナではホロヴィッツ国際ピアノコンクールおよびマスタークラスが4年おきに開催されているのですが、当時、その発表や受賞者

記念コンサートを私のオーケストラであるチェルニーゴフ・フィルが担当していました。

ある日、13歳の黒人の女の子がラフマニノフピアノ協奏曲第2番を弾いた時、拍子がずれてとんでもない事故になってしまったのです。

彼女の手は鍵盤から離れて、オーケストラももう少しで止まりそうになりました。終演後、彼女は私からの握手も拒むほど怒っていました。

落ち込んでいる私に先生は「良かったよ。明日も同じプログラムがあるんだろ？君も最大限の努力をしたんだからそれでいいじゃないか。明日も来るよ。」と言ってくださりその日は終わりました。

しかし次の日、本番直前まで先生をお見受けしなかったため、来られないのだなと思っていました。

前日には「本日の指揮者ミツノブタカヤはウクライナ国歌芸術家ドゥーシエンコ先生の門下生です。」というアナウンス告知までされていました。それなのに先生の顔に泥を塗ってしまったので、来てらっしゃらないと分かった時は正直なところちよつとホツとしました。そしてオケメンバーは「ミツ、昨日のことは気にすることないよ。」と何故かやたらと楽屋に来て励ましてくれたのです。

再び例の女の子との本番です。客席にお辞儀をして指揮台上がりパツと前を見ると…なんとティンパニの横に先生が座っているのです！しかもオケの全員がこの事を知っていました。

先生はご自身でパイプ椅子をティンパニの横まで運んで座っていたそうですが、舞台上で一人だけちよこんといるのはとても目立っており、これがモニターのテレビに映ると楽屋のミツにバレてしまう、テレビを見せるなどという指令がオーケストラ内で出ているのです(笑)それでひっきりなしにメンバーが楽屋に来たというわけです。

なんとか本番を乗り切り、先生がハラショー！（良かった！）と言ってくださった時、涙を止めることはできませんでした。



舞台袖で、先生が抱きしめてくださり「いろんな失敗があるんだよ。でもね、今日のようにこれから先どんなに不安があったとしても、僕がティンパニの横に座っていると思いなさい。」と言ってくださいました。

私はいつでもこの言葉を支えにして指揮台にあがっています。

今回のプログラムの曲のことをお伺いしたいです

チャイコフスキーのバレエ「白鳥の湖」は名曲中の名曲です。今回の選曲では各幕のコーダを入れることで全体がシンフォニックに見えるように起承転結を作りました。有名な第10番「情景」に加え、他に素晴らしい旋律の曲もたくさんあります。またオーケストラの持ち味が活かせるよう各セクションが華やかに活躍できる選曲にもなっています。そしてお客様が「聴いたことがある、楽しめる」という感覚はとも大切です。何を求めておられるのかを感じ取れなければ、これからのクラシックは明るくなりません。それを考慮しつつ、知られざる名曲も紹介していきたいと思えます。

ラフマニノフの交響曲第3番は、私がかウクライナで学んだ曲の中で最難関の作品でした。曲自体が複雑であると

同時に、哲学的にかなり深いと感じます。この作品の魅力である「愛情」は様々に表現されますが、特に第1楽章では自分を支えてくれた両親、友人、大切な人への想いが込められていると感じるのです。

先程の練習の中で、先生は「ラフマニノフはこの部分でこう言っているんだよ。」とよく仰られていましたが、実はそれは先生ご自身の想いであるように強く感じました

ありがとうございます。確かにそう思います。自分の感性とこの音楽が密接に繋がっているからです。

この作品にはどこを切り取っても必ず「何か」があります。「喜び」「過去」「真実」「神の導き」…等々。

「人生とは喜びに向かうべきである。」これはドゥーシエンコ先生のお言葉です。

ラフマニノフも特に第3楽章ではその想いを込めたのではないのでしょうか。「向かう」ではなく「向かうべきである」というこの言葉の深さと重さを感じます。隣国ロシアとの戦争が続くウクライナで指揮者として大成された先生の軌跡を感じずにはいられません。

今回の岐響との練習をどうお感じになられていますか？

今までに多くのファミリーコンサートを指揮させていただきました。毎回企画から共に作り上げてきたという感覚を持っております。

しかし今回は定期ということもあり初練習は少し様子が違いました。団員さんは「高谷光信のイメージからこの流れになるだろう。」とよく研究されていたのです。メロディーの緩急や広がり方など、驚くほど私のイメージに近い演奏でした。それは、とても嬉しく皆さんの想いがひしひしと伝わってきました。

そして、もう一つ感じたことがあります。リクエストしたことが一度くらいアされるということです。それは今まで素晴らしいマエストロと共演され多くの引き出しを持つてらっしゃるといふことです。このオーケストラの歴史そのものであると思います。

今後はどのような活躍をされていきたいですか？

本年度より東京混声合唱団の指揮者に就任させていただきました。日本を代表するプロ合唱団の指揮者陣の仲間入りをさせていただいたことを大変光榮に思います。今後は合唱のコンサートにも力を入れていきたいと思っております。

また2019年6月「NPO法人Musik Engine」（ミュージックエンジン）を立ち上げました。これは、クラシック音楽のファン拡大と若手演奏家への演奏機会の提供を目的としております。理事長は岐阜県交響楽団でも指揮をされたことのある鈴木忠明さん（大日コーポレーション株式会社代表取締役社長兼グループCEO）で、私は副理事長および音楽監督を拜命しております。そのNPOの活動の一環としてMusik Engine合唱団

（プロ）およびフレンドズ（アマチュア）を発足させて動き始めています。産官学が力を合わせて東海から全国へ音楽界が活気づくような活動をしていきたいと考えております。そして一般の方も是非合唱でご参加くださると嬉しく思います。「ミュージックエンジン」と検索しホームページをご覧くださいれば幸いです。

来年8月2日には、「NPO法人Musik Engine」主催で、岐響とのコンサートも開催予定です。今後も岐阜県交響楽団と素晴らしい演奏会が続いていきますようお願いしております。

とても興味深いお話、ありがとうございました。

インタビュアー Hr 畑 匡人

第91回定期演奏会

(2019年6月30日 不二羽島文化センター)

今回も沢山のお客様にご来場いただき、また沢山のご感想をいただきました。
その中から僅かではございますが、ここにご紹介させていただきます。

- 女性の指揮者の演奏を聴くのは初めてだった。すごくエネルギッシュで驚いた。音楽もあり張りがあった。楽団が一つにまとまっているように感じた。

(安八郡、60代、女性)

- 岐響さんのコンサートは良くききます。したしみやすく、気軽に来れます。いろいろと考えてあり、いいです。指揮の方もキビキビとした動作で(あたりまえですが)良かったです。迫力ある指揮です。指揮者カッコイイ！全体として迫力ある演奏でした。良かったです。

(岐阜市、60代、男性)



▲熱い眼差しで指揮をされた新田ユリ先生

- 「春の歌」初めて聴きました。シベリウスらしい響きで、聴けばそれと分かります。細かい部分ですが、前半の音程がやや不安定でしたかね～。シベリウスはさすがに良く練習されていて、かつ集中もされていました。新田先生には全て分かっている様子ですね、さすがでした。(揖斐郡、50代、男性)

- 短い練習時間でここまで仕上げられて素晴らしい。とても良かったです！シベリウスの出だし、クラリネットの音色とても聴き入りました。他のソロの方の演奏もとても努力の後がみられ、素晴らしかったです。指揮も素敵でした。(岐阜市、女性)



▲本番前のロビーコンサート

- 伊福部さんの曲を初めて知り、その背景も分かり良かった。ロビーコンサートは気軽に聴けていつも楽しみです。
(岐阜市、50代、女性)
- 交響譚詩、初めて聴き日本らしさが有りおもしろく聴けた。指揮者の姿を近くで拝見でき、良かった。思わぬロビーコンサートもありがとうございました。
(一宮市、60代、女性)
- 壮大なハーモニー&躍動感あふれる演奏にひきこまれました。シベリウスはあまりなじみがなかったですが、良さを知ることができました。
(関市、40代、女性)
- フィンランディアしか知らなかったシベリウスの作品をダイナミックな演奏で初めて生で聴き、大変感銘深く聞きました。ありがとうございます。またシベリウスを紹介してください。
(岐阜市、70代、男性)

▲演奏終了後、ホッとした表情で拍手に応える新田ユリ先生
スコアを抱えていることから、いかに作曲家を大切にしているかが伝わります

- 初めて聴く曲でした。良かったです。ハーブの音色すてきてました。クラリネットのソロ、よかったです。
(50代、女性)
- 午後ひと時ゆったりとした気分で過ごすことができました。
(県内、70代、男性)
- このような演奏会に初めて来ましたが、素晴らしい演奏でその迫りに圧倒されました。また是非演奏を聴きたいです。
(岐阜市、20代、女性)
- 伊福部の曲は何か懐かしく心にしみ通るような感じで聞きました。昔どこかで聞いたことのあるような曲でもあり、心地良い曲でした。聴かせていただき感謝です。
(羽島市、70代、男性)

岐響団員が語る！ 楽器の魅力・楽器との出会い

楽器への思い トランペット編

皆さんはトランペットから何を連想しますか？

ひよつとしたら甲子園の応援ですか？それとも、イベントのパレード？

日本ではスクールバンドを中心に吹奏楽が盛んですよね！あとはジャズなどでも重要なパートだと思います。

さて、オーケストラではどんな感じでしょうか。

元々、トランペットは不自由な楽器で、昔は今のようないろいろな音が出ませんでした。音を変えるバルフシステムがなくて、自然倍音のみで曲に使われていました。

自然倍音の詳しい説明はお互い頭が痛くなる物理のお話になるので、簡単に説明いたします。音には固有の振動数があり、倍になると1オクターブ高くなります。

第一倍音を下の音だとすると、第二倍音はオクターブ上、第四倍音はさらにオクターブ上の下、次の下は第八倍音になります。トランペットの実用音域は第二倍音から第八倍音あたりまでなので、そのあたりの倍音の説明をします。

第三倍音はソの音になり、第六倍音はオクターブ上のソになります。第五倍音はミになり、第七倍音はシブです。第二倍音から第八倍音まで並べると、ド↓ソ↓ド↓ミ↓ソ↓シブ↓ドです。さらに上の倍音を使

いこなす達人もいますが、羨ましい限りですわね！

お話しを戻しますが、ハイドンやペーラーヴェンなど、古典の曲ではこれらの限られた音だけを使っていました。なので曲の調に合わせた楽器を、いくつも用意する必要がありました。

その後、バルフシステムが開発されて、今ではいろいろな音を出せるようになりました。メロディーなども吹けるようになりました。また、バルフシステムにはピストン式とロータリー式の2種類があります。

皆さんにお馴染みなのはピストン式になります。

ロータリー式は主にドイツやオーストリアのオーケストラで使われています。ベルリン・フィルやウィーン・フィルの映像でご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

ちなみに岐響では曲によって、ピストンとロータリーを使い分けています。

さて音を変える方法ですが、写真でもご覧の通り、三本のピストンを駆使しているような音を演奏しています。

よく「なぜ、たった三本でいろいろな音が出るのですか？」と質問を受けますが、その答えは先程の自然倍音とピストン操作の組み合わせで、すべての音を出しているからです。しかし、ここで難題が立ちほだかっています。

自然倍音をコントロールするテクニクは難しく、世界中のラッパ吹きが、血のにじむような（または髪の毛を犠牲にするような）努力をしています。たまに、音が外れても温かい目で見守って下さいね。

最後にトランペットの仲間のホルネットを紹介いたします。

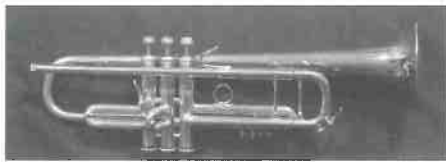


▲ホルネット

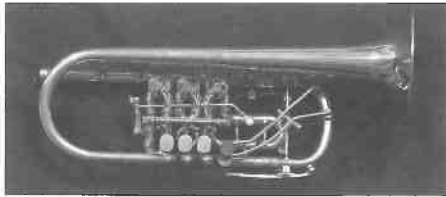
写真でもおわかりのように、トランペットより少しコンパクトな設計になっていますが、音域は同じで、主として金管バンドや吹奏楽で活躍しています。

オーケストラでは、フランスの作曲家やチャイコフスキーなどで、トランペットと併用して使うことがあります。

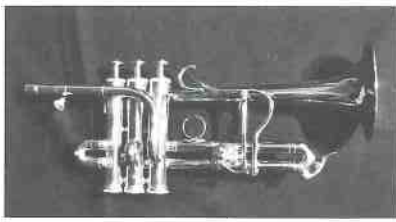
今回のコンサートでも、「白鳥の湖」で活躍しますので、トランペットとの音色の違いをお楽しみ下さいね。



▲ピストン式



▲ロータリー式



▲ピッコロトランペット B♭/A

オーケストラと一緒に 平野嘉晶

今も岐響で、素晴らしい皆様と演奏活動が出来る事を、本当に感謝しています。

トランペットのメンバーはオケ経験の長い人ばかりで、私が一番新米だと思います。まじめで親切な馬淵さん、トレーナーであり、リーダーの余語さん、ユーモアのある楽しい小野木さん、やさしくてすばらしい人たちに囲まれて、楽しく演奏させて戴いております。

最近パパになった中村さんは、転勤で大垣へ行かれ残念です。又戻って来られるといいですね。北村さんは、とつてもすてきな女性トランペッターでうまいですね。2020年のファミリコンサートには、出演出来ると思います。今回の定演は、かわい谷口さんがコルネットで共演できて楽しいですね。

私がオーケストラで演奏した最初の経験は、30数年前仕事でワシントン州シアトルのレッドモンド(その頃、マリナーズのイチローの住んでいたヴェルビユという高級住宅地の隣町でした。)という所に住んでいました。

私はクリスチャンで、日曜日にシアトルのダウンタウンにあるPHILADELPHIA CHURCHの礼拝に出席していた所、教会でトランペットを演奏する機会があり、そこにいたミュージック・パスター(プロの音楽家の牧師)にシアトルに地域のオーケストラがあるので入るように勧められ、入団でき楽しく練習でき、言葉の練習にもなりまし

た。12月には大きなクワイヤーと共に、クリスマス・コンサートにも出演でき、良い思い出となりました。

2023年5月4日の岐響のカーネギーホールでの演奏会も予定されているので、健康が守られ、池田さん(Vn)も共に行ける事を目標に、頑張っていきたいと思っております。

トランペットと岐響の出会い 馬淵 茂

中学に入学して、すぐ吹奏楽部に入部しました。トランペットを吹きたかったので、与えられたのはアルトホルン(ユーフォニウムを小さくしたホルンの仲間)でした。でもどうしてもトランペットが吹きたかったので、直訴してパートを代えてもらいました。それからはトランペット一筋で現在に至ります。

記憶が定かではありませんが、岐阜交響楽団(当時は楽団名に「県」は入っていません)が中学校に来て演奏を聴いた覚えがあります。これが岐響との出会いでした。

大学を卒業後、同級生や知人がいるナゴヤディレクターズバンド(当時の指揮者は保科洋先生)に入って活動を続けていました。2年後に岐響からお誘いの電話があり、とりあえず練習を見させていただくという事で当時の練習会場：岐阜南市民会館に行きました。すると当時のトップ奏者の国井さんから「一緒に吹いてよ」と言われ、チャイコフスキーの交響曲第5番を吹きました。そして、まだ入団するか聞かれていないのに、練習後の連絡時に新入団員

として紹介されてしまいました。あれから44年間在籍しています。

トランペットとの出会い 余語徳雅

私とトランペットとの最初の出会いは、40数年前の中学時代にさかのぼります。当時、私の母校には吹奏楽部はなく、週一回のクラブ活動に器楽クラブがありました。元々、クラシック好きだった事と器楽クラブに少し管楽器が導入されていたので、迷わず入りました。

ここで、最初に選んだ楽器はトランペットではなくて、なんと某木管楽器でした。リコーダーが、得意だった故の選択でしたが、1〜2ヶ月で挫折。顧問の先生に第2希望のトランペットへの変更を直訴!

しかし、当然、楽器の空きがなく唯一ポロポロのメロフォンという金管楽器が残っていたので、しばらくはそれを吹いていました。他の同級生はすでに合奏練習に参加していましたが、金管楽器初心者の私は、音楽準備室で、ひたすら個人練習でした。

2学期になって、トランペットに欠員が出たので、やっとトランペットを吹けるようになりましたが、高い音が出なくて、とても苦労した事を覚えています。

その後は、高校で吹奏楽、大学でオーケストラを経験して今に至っていますが、相変わらず、ハイトーンには苦労しています!

トランペットとの出会い 小野木隆朗

私がトランペットを始めたきっかけは中学校の部活紹介でした。それまではスポーツ少年団ですーっと剣道をやっていたので部活は剣道部に入るつもりでしたが、金ピカに光るトランペットを見た瞬間に「やりたい!」という衝動にかられ吹奏楽部に入部しました。しかしトランペット希望者が多く他の楽器になりそうだったので親に無理を言ってトランペットを買って貰い、既成事実を作り半ば強引にトランペットパートに入れて貰いました。今から思えば親も剣道を続けるだろうと思っていたところへ吹奏楽部に入り、いきなりトランペットを買って欲しいと言いだしたのでさぞかし驚いたのだと思います。

岐響への入団のきっかけは市民吹奏楽団在籍中に余語さんとの出会いでした。その頃余語さんと私は市民バンドフェスティバルのトランペットアンサンブル出演のために毎月名古屋での合同練習に参加していました。その帰り道にオーケストラに興味がある事を話したら岐響の練習見学へ連れて行ってもらえることになり、当時、練習場のあった加納の岐阜南市民会館に連れて行って頂きました。その見学時にたまたま「次の演奏会に空きがあるから出てみる?」というお話を頂いて演奏会に出させて頂きましてそのまま居座ること今年で34年目になります。相変わらずの「暴奏」行為でお騒がせしておりますがこれかもよろしくお願いたします。

～実演芸術アウトリーチ事業～

(今年の演奏活動より)

この事業は、岐阜県内の実演芸術文化団体が、県内の学校教育機関や文化施設、福祉施設へ出前公演するもので、岐阜県交響楽団は7月14日、関市立洞戸小学校にてアウトリーチ公演を行いました。児童さんたちによる指揮者コーナーの他、オーケストラ伴奏による合唱では、元気いっぱいの歌声に私たちも感動させられました。

児童さんたちから、たくさんの感想をいただきました。そのどれもが、ほとんどの子たちが生のオーケストラを初めて体験したことへの驚きや感激に満ちていて、私たちがこの事業に参加していくことの意味を強く感じさせてくれるものでした。その一部をご紹介します。

コンサートはつまらないイメージがあったけど、すごく楽しくて面白かったです。とても間近で聴けてすごく迫力がありました。

(6年生)

校歌がいつもと違っておもしろかったです。踊る仔猫の曲も猫が本当に鳴いているみたいでした。

(2年生)

楽器のそれぞれの音が違って、それが一齐に弾くととても迫力があってすごかった。指揮者の棒の振り方が激しくてとてもびっくりしたし、かっこいいなと思いました。

(5年生)

校歌を子供も一緒に歌っていて、感動しました。生の演奏というのは、子供の耳にも大人の耳にもとても心地よく良いなあと感じました。素敵な時間をありがとうございました。

(保護者)



子供たちが親しみやすい選曲で、楽しく聴くことができました。同じフロアで直に迫力のある演奏を聴くことができ感動しました。

(教員)

私はオーケストラの演奏をテレビでは見たけど実際で見られるとは思いませんでした。

(5年生)

どの曲もピアノで弾くのと違っていろんな楽器があって雰囲気かわっておもしろかったです。私はピアノをやってみたいと思いました。

(2年生)

その他、詳しい内容につきましては、岐阜県交響楽団HPをご覧ください。

[岐阜県交響楽団](#)

検索

お問い合わせ 岐阜県交響楽団事務局 TEL 058-244-0150 gikyo@ktroad.ne.jp